

平成26年度（2014年度）

# 事業報告書

平成26年(2014年)4月1日から平成27年(2015年)3月31日まで

公益財団法人 損保ジャパン日本興亜美術財団

# I 事業の概要

## 1. 東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館の運営

### (1) 美術作品の収集、保存、公開

#### ① 特別展

##### 1) ゴッホの原点 オランダ・ハーグ派展—近代自然主義絵画の成立—

(4月19日～6月29日)

主催: 当館、朝日新聞社

協賛: 損保ジャパン、日本興亜損保

後援: オランダ王国大使館、オランダ政府観光局

協力: KLM オランダ航空

企画協力: プレーントラスト

本展では、オランダのハーグ市立美術館の所蔵作品を中心に、ハーグ派の作品だけでなく、クレラー＝ミュラー美術館、ならびに国内に所蔵されているバルビゾン派の作品、そしてハーグ派の影響を受けたゴッホと抽象画家ピート・モンドリアンの初期作品全72点を紹介した。金曜日の開館時間を延長し、20時閉館とした。

#### 【関連行事等】

- 開会式及び内覧会 (4月18日)  
展望回廊において開会式を開催し、当館館長及びオランダ王国大使、ハーグ市立美術館館長が挨拶し、引き続き内覧会を開催した。
- 学芸員によるギャラリートーク (5月10日)
- 開催記念講演会「ハーグ派とゴッホ」 (5月17日)  
講師: 古谷可由氏(本展日本側監修、ひろしま美術館学芸部長、)、参加者: 126名
- 上映会「オランダの光」(2003年、オランダ、94分) (5月25日、31日)  
2階大会議室において、各日とも午後1時と午後3時に、当日自由参加形式の上映会を開催した。
- ギャラリー★で★トーク・アート (6月9日)  
休館日の展示室において、ガイドスタッフと対話をしながらの作品鑑賞会(予約制)を行った。参加者: 25名

#### 【主な掲載誌等】

共催の朝日新聞をはじめ、日本経済新聞、産経新聞、東京新聞のほか、雑誌、ケーブルテレビ、インターネット、ラジオなどで幅広く取り上げられた。

##### 2) 不思議な動き キネティック・アート展—動く・光る・目の錯覚— (7月8日～8月24日)

主催: 当館、読売新聞社

協賛: 損保ジャパン、日本興亜損保

後援: イタリア大使館／イタリア文化会館

協力: アリタリアイタリア航空、日本貨物航空、アピチェミラノ、日本通運

特別協力: 伊日現代美術センター(パルマ)

企画協力: アートプランニング レイ

本展は、1960年代にイタリアを中心に展開したキネティック・アートを日本で初めて総合的に紹介する試みであり、先駆的なブルーノ・ムナリーをはじめとするイタリアの作家たちのほか、フランスやドイツで活動した作家たちを合わせた30名余による平面・立体作品88点を展示した。いずれもイタリア国内のコレクションからの出品で日本初公開であった。

#### 【関連行事等】

- 開催記念講演「不思議な光・動きのアート誕生物語」 (7月26日)  
講師: 谷藤史彦氏(本展監修、ふくやま美術館学芸課長)、参加者: 75名
- 学芸員によるギャラリートーク (7月25日、8月1日)
- 学芸員による小中学生と保護者対象のギャラリートーク (8月2日、8月9日)
- ワークショップ「かんたんキネティック・アート!？」 (8月2日～8月24日)  
1階美術館ロビーにおいて、当日自由参加形式で、くるくる回せるうちわの両面に参加者が描いた絵の動きを体験してもらった。参加者: 1, 362名
- ふぁみりー★で★とーく・あーと (7月28日、8月18日)  
休館日の展示室において、ガイドスタッフと対話をしながらの作品鑑賞会(予約制)を行った。参加者: 9名(うち中学生以下5名)、33名(うち中学生以下14名)

#### 【主な掲載誌等】

共催の読売新聞をはじめ、美術雑誌、男性誌、インターネット(CINRA他)等で幅広く取り上げられた。また、読売新聞ジュニア記者による記事が、読売週間 KODOMO 新聞(8月2日付)に掲載された。

### 3) 印象派のふるさと ノルマンディー展 近代風景画のはじまり (9月6日～11月9日)

主催: 当館、日本経済新聞社

協賛: 損保ジャパン日本興亜

後援: 在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本

協力: エールフランス航空

企画協力: プレーントラスト

本展では、アンドレ・マルロー美術館の協力のもと、フランスを中心に国内外の美術館が所蔵する作品から、自然や歴史遺産といった「絵になる風景」の宝庫、ノルマンディーの魅力をとらえた油彩、素描、版画、写真など109点を展示し、ノルマンディーが近代風景画の成立と発展に果たした役割を探った。金曜日は開館時間を延長し、20時閉館とした。

#### 【関連行事等】

- 開会式及び内覧会 (9月5日)  
展望回廊において開会式を行い、当館館長及び在日フランス大使館文化参事官、アンドレ・マルロー美術館館長が挨拶し、引き続き内覧会を開催した。
- 学芸員によるギャラリートーク (9月12日、20日)
- お客様感謝デー無料観覧日 観覧者: 2, 119名 (10月1日)
- 開催記念講演会『ノルマンディー近代風景画のはじまり』 (10月11日)  
講師: 古谷可由氏(本展日本側監修、ひろしま美術館学芸部長) 参加者: 128名
- ギャラリー★で★トーク・アート (10月20日)  
休館日の展示室において、ガイドスタッフと対話をしながらの作品鑑賞会(予約制)を行った。参加者: 26名

【主な掲載誌等】

NHKEテレ「日曜美術館」アートシーンで紹介された。(9月21日)  
共催の日本経済新聞をはじめ、美術雑誌他一般誌、ケーブルテレビ、インターネット、ラジオなどで幅広く取り上げられた。

② 企画展

1) 東郷青児〈超現実派の散歩〉と収蔵品選 (11月15日～12月25日)

主催: 当館

協賛: 損保ジャパン日本興亜

本展は、9月の館名変更を記念し、「Ⅰ. 東郷青児と《超現実派の散歩》」と「Ⅱ. 損保ジャパン日本興亜コレクション」の2つのセクションで構成し、当館の収蔵作品を紹介した。東郷青児の初期から代表作《望郷》までの37点と同時代の他作家の作品33点、損保ジャパン日本興亜から寄託を受けている作品22点の合計92点を展示した。

【関連行事等】

- ギャラリー★で★トーク・アート (12月15日)  
休館日の展示室において、ガイドスタッフと対話をしながらの作品鑑賞会(予約制)を行った。参加者: 28名

【主な掲載誌等】

朝日新聞夕刊(12月3日付)で、展覧会の概要及び出品作品2点が紹介された。

2) 「クインテットⅡ」ー五つ星の作家たちー (1月10日～2月15日)

主催: 当館、朝日新聞社

協賛: 損保ジャパン日本興亜、SHISEIDO

本展は、国内外の美術館企画展などで継続的な作品発表の実績があり、将来有望な5人の作家たちを紹介する「クインテット(五重奏)」と題するシリーズ企画の第2弾。今回は、抽象的で「色彩」を意識した「心象風景」として、富岡直子、平体文枝、岩尾恵都子、水村綾子、山本晶の近作・新作71点を展示した。

【関連行事等】

- 開会式及び内覧会 (1月9日)  
展望回廊において開会式を行い、当館館長及び学芸課長が挨拶し、出品作家5名を紹介した。
- アーティスト・トーク (1月10日、17日)  
展示室において、出品作家がそれぞれの作品を前にして一般観覧者を対象に作品解説を行った。
- ギャラリー★で★トーク・アート (2月2日)  
休館日の展示室において、ガイドスタッフと対話をしながらの作品鑑賞会(予約制)を行った。参加者: 13名

【主な掲載誌等】

共催の朝日新聞を始め、読売新聞、毎日新聞、産経新聞、The Japan Times、等で紹介された。

3) 「FACE展 2015 損保ジャパン日本興亜美術賞展」 (2月21日～3月29日)

主催: 当館、読売新聞社

協賛: 損保ジャパン日本興亜

本展は、財団設立時からの作家支援活動の理念を継承した公募コンクール形式の第3回目であり、748点の応募作品から6次審査を経て選考された70点の入選作品(うち受賞作品9点)を紹介した。

VOCA展2015(上野の森美術館 会期:3/14～3/30)と連携し、相互の観覧券による観覧料割引を実施した。

【関連行事等】

- 内覧会及び表彰式 (2月20日)  
内覧会を開催し、展示室において入選作家を対象にした審査員による審査講評を実施した。43階ロビーでは、受賞作家9名の表彰式を行い、その後のティーパーティでは、入選作家と審査員・美術評論家等の交流の場を提供した。
- ギャラリー★で★トーク・アート (3月16日)  
休館日の展示室において、ガイドスタッフと対話をしながらの作品鑑賞会(予約制)を行った。参加者:19名

【主な掲載誌等】

2月19日付読売新聞夕刊に展覧会の概要及び受賞作品が掲載された。また、朝日新聞、東京新聞等でも紹介された。

③ 併設展示

1) 常設展示コーナー

ゴッホ《ひまわり》、ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》、セザンヌ《りんごとナプキン》は、以下の期間を除き常時展示した。

- ゴッホ《ひまわり》  
宮城県美術館への貸与に伴い、6月30日～9月5日は展示なし。
- ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》  
修復・点検作業のため、2月21日～3月9日は展示なし。

【主な掲載誌等】

読売新聞(7月7日付)に、宮城県美術館へ貸与される《ひまわり》についての記事が掲載された。

2) 収蔵作品展示コーナー

特別展及び企画展に併設し、東郷青児、グランマ・モーゼス作品を中心に当館収蔵作品を展示した。「FACE展 2015」では、昨年のグランプリ作品《Toxic》を展示した。

【主な掲載誌等】

日本テレビ「ドラマ化したい偉人伝 クライマックスまで待てない！」(放映日:11月23日 13時15分～1時間)の番組内で、東郷青児と当館収蔵作品《窓》が紹介された。

④ 展覧会解説

1) 図録・解説書の刊行

- 「オランダ・ハーグ派展」図録
- 「オランダ・ハーグ派展」ジュニア版ブックレット

- 「キネティック・アート展」図録
- 「キネティック・アート展」ジュニア版ブックレット
- 「ノルマンディー展」図録
- 「ノルマンディー展」ジュニア版ブックレット
- 「クインテットⅡ」図録
- 「FACE展 2015」図録

## 2) ギャラリートーク、アーティストトーク

特別展では、学芸員が一般観覧者を対象にギャラリー・トークを実施した。「キネティック・アート展」ではさらに小・中学生とその保護者を対象にしたギャラリー・トークも実施した。「クインテットⅡ」では、出品作家5名がそれぞれの作品を前に一般観覧者を対象に作品解説を行った。

## 3) 講演会(会場:2階大会議室、時間:14時~16時)

- 「オランダ・ハーグ派展」開催記念講演会 参加者:126名 (5月17日)  
本展日本側監修の古谷可由氏(ひろしま美術館学芸部長)による講演会を開催し、「ハーグ派とゴッホ」と題して、ゴッホの画集におけるハーグ派との関わりをスライドを用いて、主題や制作方法などの様々な視点から比較、解説した。
- 「キネティック・アート展」開催記念講演会 参加者:75名 (7月26日)  
本展監修の谷藤史彦氏(ふくやま美術館学芸課長)による講演会を開催し、「不思議な光・動きのアート誕生物語」と題して、イタリアの奇才ブルーノ・ムナーリや70年の大阪万博のエピソードを交えた話があった。
- 「ノルマンディー展」開催記念講演会 参加者:128名 (10月11日)  
本展日本側監修の古谷可由氏(ひろしま美術館学芸部長)による講演会を開催し、「ノルマンディー近代風景画のはじまり」と題して、フランス有数のリゾート地として発展してきたノルマンディーの美しさを愛し画面にとどめようとした画家たちとその作品を紹介しつつ、現在のノルマンディーの様子を写真で紹介した。

## 4) 諸団体への対応

月 日	団体名・人数	内容
5/10	朝日旅行10名	「オランダ・ハーグ派展」の見所紹介
5/28	桑名市立明正中学校生徒6名	調べ学習への対応
7/16	読売新聞ジュニア記者4名	「キネティック・アート展」取材対応
9/11	フランス・ノルマンディー地方議会議員長他7名	「ノルマンディー展」解説
11/19	岡山県町村会18名	美術館概要説明
11/28	日野市七尾中学校2年生24名	美術館概要説明及び収蔵品解説
12/4	船橋市高根公民館24名	美術館概要説明及び収蔵品解説
12/11	杉並区立天沼小学校 5年生64名	美術館概要説明及び収蔵品解説
3/6	新宿区西戸山中学校生徒6名	職場訪問対応

⑤ 展覧会別観覧者数

展覧会名	会期	開館日数	有料計	無料計	合計	1日平均	小中学生
オランダ・ハーグ派展	4/19～6/29	63	18,031	26,123	44,154	701	1,001
キネティック・アート展	7/8～8/24	43	10,675	9,379	20,054	466	3,118
ノルマンディー展	9/6～11/9	59	14,892	23,080	37,972	644	862
東郷青児〈超現実派の散歩〉と収蔵品選	11/15～12/25	36	3,562	3,591	7,153	199	557
クインテットⅡ	1/10～2/15	33	3,223	6,678	9,901	300	752
FACE展 2015	2/21～3/29	32	3,442	3,809	7,251	227	181
平成26年度年度合計		266	53,825	72,707	126,532	476	6,471

⑥ 館蔵品・資料・文献の充実

- 1) 美術品の購入 (2月20日)  
「FACE 2015 損保ジャパン日本興亜美術賞」グランプリ作品  
(作者)宮里紘規 (題名)WALL  
(制作年)2014年 (材質)ミクストメディア (寸法)194cm×162cm
- 2) 美術品の受託 (3月20日)  
平山郁夫《ブルーモスクの夜》
- 3) 美術資料の受贈 (12月6日、9日)  
東郷青児の商業美術作品2点
- 4) 美術資料の受託 (2月20日)  
東郷青児の関連書籍(装画・カット)及び木版画 計11点
- 5) 館蔵品の修復・点検
  - ・ ゴッホ《ひまわり》は、他館貸与に伴い、コンディションチェックを行った。(9月18日)
  - ・ ゴーギャン《アリスカンの並木路、アルル》は、他館貸与に伴い、コンディションチェック及び額の改善を行った。(2月16日～3月9日)
  - ・ 年度末にかけて館蔵品の棚卸を実施した。

⑦ 館蔵品の貸与

作品名	貸与先等
東郷青児作品 油彩17点、素描11点、彫刻16点、その他資料12点	「東郷青児絵画と彫刻展」(7/19～9/23) あさご芸術の森美術館(兵庫県朝来市)
ゴッホ《ひまわり》	「ゴッホの《ひまわり》展」(7/15～8/31) 宮城県美術館

作品名	貸与先等
東郷青児作品 油彩9点、彫刻2点	「二科99回展 東郷青児特別展示」(9/3～9/15) 新国立美術館
山口華楊《幻化》	「第20回記念特別展 秘蔵の名品アートコレクション展」(8/8～8/31) ホテルオークラ東京
グランマ・モーゼス 《プロポーズ》	「おいしいアート -食と美術の出会い」 (9/13～11/3) 横須賀美術館
笠井誠一《二つの卓上静物》	「笠井誠一展」(1/25～3/29) 札幌芸術の森美術館
東郷青児《超現実派の散歩》	「空とぶ美術館展」(3/7～5/6) 三重県立美術館
東山魁夷《潮音》	「川端康成と東山魁夷 巨匠が愛した美の世界」展 (3/20～5/10) 島根県立美術館

## ⑧ 調査・研究

### 1) 図録・解説書の製作等

「オランダ・ハーグ派」展、「ノルマンディー展」では、展覧会図録の翻訳に参画した。特別展では、小中学生を対象に展示内容を簡潔に解説したジュニア版ブックレットを「クインテットⅡ」と「FACE展 2015」では、展覧会図録を製作した。

### 2) その他執筆・講演活動

- ・ あさご芸術の森美術館で開催された「開館15周年記念 東郷青児絵画と彫刻展」において、講演会の講師を務めた。
- ・ しんぶん赤旗日刊(6月11日付)に寄稿し、「オランダ・ハーグ派展」を紹介した。
- ・ 平成27年度版「図画工作」教師用指導書「アート・カード」に掲載される作品4点の解説文を執筆した。
- ・ しんぶん赤旗日刊(10月13日付)に寄稿し、「ノルマンディー展」を紹介した。
- ・ 「美術の窓」1月号に寄稿し、「クインテットⅡ」展を紹介した。
- ・ 「美術の窓」2月号に寄稿し、「ユトリロとヴァラドン」展を紹介した。

## (2) 展覧施設の運営管理

### ① 美術館の名称変更

(9月1日)

美術館の名称を「東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館」に変更し、行政庁(内閣府)及び東京都へ届け出るとともに、以下のとおり対応した。

#### 1) 看板・案内表示等の刷新

ビル周辺及び館内、展示室内の看板や案内表示類を刷新し、美術館受付の内装をリニューアルした。

#### 2) 当館ホームページの刷新

「見やすく、分かりやすい」をコンセプトに、ホームページを全面的に刷新した。トップページに開館状況が一目で分かるよう展覧会カレンダーを掲載するとともに、コレクション情報のデータベースを一部公開して、主要な作品の画像や情報を閲覧できるようにした。また、リアルタイムで情報を発信できる体制を整備した。



- 3) 美術館リーフレット(和文・英文)を改訂し、封筒等の印刷物を刷新した。ミュージアムショップの頒布品は順次リニューアルしている。

② ミュージアムショップの運営

- 1) 新たに以下の頒布品を製作・販売した。

通年販売(新規)	3Dフィギュア「東郷青児《望郷》」、 切手・絵はがきセット「東郷青児《望郷》」
通年販売 (名称変更に伴うリニューアル)	クリアファイル3種、ミニクリアファイル3種、 ミニミニクリアファイル2種、アートクロス4種 一筆箋4種、七宝額《ひまわり》、紙袋《ひまわり》
期間限定販売(9月～1月末)	2015年版カレンダー2種 「グランマ・モーゼス」「東郷青児」

- 2) 特別展では、展覧会関連の頒布品を受託及び一部買取で販売した。

- 3) 以下の頒布品を委託販売した。

「東郷青児絵画と彫刻展」 (7/19～9/23) あさご芸術の森美術館	東郷青児関連グッズ (絵はがき、額絵、クリアファイル、ピンズ、一筆 箋、作品集、素描集、収蔵品目録、ジュニア版ブ ックレット、しおり)
「ゴッホの《ひまわり》展」 (7/15～8/31) 宮城県美術館	《ひまわり》関連グッズ (絵はがき、立体複製画、ピンズ、七宝額、クッキ ー、ジュニア版ブックレット)

③ 施設・設備等の整備

- 1) 本社ビル改修工事の一環として、ビル管理会社により42階美術館受付前エレベーターホールの内装工事が実施された。(3月30日～4月18日)
- 2) ビル管理会社により、美術館フロアのカーペット清掃が実施された。(4月2日)
- 3) 美術館フロアの虫害防除作業を実施した。(4月4日)
- 4) 名称変更に伴う看板表示類の刷新、受付内装工事を実施した。(8月25日～9月2日)
- 5) ひまわり展示収蔵庫のガラス清掃を実施した。(9月2日)
- 6) 1階に設置していたロッカーの一部を42階に移設し、壁面に固定した。(1月8日)
- 7) 本社ビル街灯の更新工事に伴い、青梅街道側のフラッグ用金具を交換した。(2月下旬)
- 8) ビル管理会社により、消火設備、ハロンガス設備、自動扉、空調設備等の点検及び動作確認が定期的に実施された。

④ 印刷物の発行

- 1) 名称変更に伴い、美術館リーフレット(和文・英文)を改訂した。
- 2) 2月に「2015年度 展覧会一覧表」を作成した。
- 3) 3月に美術館レポート2014を発行した。

⑤ 映画への協力

平成27年4月公開予定のアニメ映画「劇場版名探偵コナン『業火の向日葵』」の製作に際し、損保ジャパン日本興亜とともに、ゴッホ《ひまわり》に関する情報提供や実写映像の撮影等の協力を行った。映画では、当館の《ひまわり》をはじめとする7枚のゴッホの《ひまわり》を題材とし、さまざまな事件が起きるアートミステリーが展開され、当館も物語の舞台として登場する予定である。

(3) 美術鑑賞教育の普及支援

① 対話による美術鑑賞

1) 新宿区小中学生の美術鑑賞教育支援事業

「新宿区における美術振興を図るための協働連携に関する覚書」に基づき、公益財団法人新宿未来創造財団と「新宿区立小学校及び新宿区立中学校の美術鑑賞教育に関する協定書」を締結し、ガイドスタッフの協力を得て事前授業の支援や休館日の鑑賞会を実施した。

【事業実施結果】

事前授業	小学校23校1,152名、中学校4校349名 合計27校1,501名	ガイドスタッフ 延べ275名
鑑賞会	小学校29校1,352名、中学校6校521名 合計35校1,873名、先生144名	ガイドスタッフ 延べ589名
ガイドスタッフ在籍数65名 活動延べ人数864名		

2) ギャラリー★で★トーク・アート

展覧会ごとに休館日1日又は2日を「ギャラリー★で★トーク・アート」の日(予約制、高校生以上有料)とし、ガイドスタッフや他の参加者と対話をしながら作品鑑賞を楽しんでもらった。「キネティック・アート展」では、夏休み企画として「ふぁみりー★で★とーく・あーと」と銘打ち、家族やグループでの参加を呼びかけた。

オランダ・ハーグ派展	6/9(月) 10時～12時	参加者25名 ガイドスタッフ:16名 ガイドスタッフ見学者:12名
キネティック・アート展	7/28(月) 10時～12時	参加者:9名 (うち中学生以下5名) ガイドスタッフ:20名
	8/18(月) 10時～12時	参加者:33名 (うち中学生以下14名) ガイドスタッフ:18名
ノルマンディー展	10/20(月) 14時～16時	参加者:26名 ガイドスタッフ:14名
東郷青児《超現実派の散歩》と収蔵品選	12/15(月) 14時～16時	参加者:28名 ガイドスタッフ:18名
クインテットⅡ	2/2(月) 14時～16時	参加者:13名 ガイドスタッフ:8名
FACE展 2015	3/16(月) 14時～16時	参加者19名(うち中学生1名) ガイドスタッフ16名

② その他の活動

- 1) 文化庁による研修成果検証のための現地調査への協力 (1月19日)  
昨年度事務局が受講した「ミュージアム・エドゥケーター研修」の成果検証として、当館の鑑賞教育支援事業等に関する現地調査に協力した。
- 2) 他館との交流 (2月11日)  
茅野市ミュージアム活性化事業に協力し、茅野市美術館の職員・サポーター等33名の来館を受け入れ、当館の活動報告とともにガイドスタッフとの交流会を開催した。

- 3) 横須賀美術館での事例報告 (2月22日)  
鑑賞教育フォーラム「地域ではぐぐむ鑑賞のチカラー学校と美術館の連携から-」において、当館の鑑賞教育支援事業に関する事例報告を行った。
- 4) 公共への協力 (2月23日)  
神奈川県大和市立中央林間小学校の美術鑑賞会「やまとアートしゃべる」に協力して、休館日の美術館を開放した。

(4) 助成関係事項

① 優秀な美術家の表彰

- 1) 「FACE 2015 損保ジャパン日本興亜美術賞」入選・受賞作品の選考 (11月15日)  
業務委託先(ヤマトロジスティクス(株))の倉庫において審査会を実施し、748点の応募作品の中から、6次にわたる審査により入選作品70点を選出し、入選作品の中から二次にわたる審査を行いグランプリ等の受賞作品9点を決定した。  
選考結果については、11月21日に応募者全員に郵送するとともに当館及び業務委託先のホームページで公表した。  
審査員は、本江邦夫氏(多摩美術大学教授)、松本透氏(東京国立近代美術館副館長)、堀元彰氏(東京オペラシティアートギャラリー チーフ・キュレーター)、坂元暁美氏(上野の森美術館学芸員)、当館館長の5名である。  
入選・受賞作品は、「FACE展 2015 損保ジャパン日本興亜美術賞展」で展示した。

賞名	副賞金	作家名	作品名
グランプリ	300万円 (作品買上を含む)	みやざと ひろき 宮里 紘規	WALL
優秀賞	各50万円	おおはし まりこ 大橋 麻里子	La Foret
		わだ かずこ 和田 和子	ガーデン(木洩れ日)
		むらかみ さき 村上 早	カフカ
読売新聞社賞	10万円	ひらの じゅんこ 平野 淳子	記憶
審査員特別賞 本江邦夫審査員	各10万円	くろき みつこ 黒木 美都子	月読
松本透審査員		おおさと さなえ 大里 早苗	Echoes
堀元彰審査員		こだま あさお 児玉 麻緒	チュー
坂元暁美審査員		しも の あきひと 下野 哲人	Black lines on the white White lines on the black
オーディエンス賞	なし	くらた かずお 倉田 和夫	BREAD・80

- 2) 「FACE 2015 損保ジャパン日本興亜美術賞」表彰式 (2月20日)  
43階ロビーにおいて表彰式を開催し、当館館長、読売新聞東京本社事業局・美術館連絡協議会事務局長、審査員長が受賞者に表彰盾を授与した。当館館長が主催者挨拶を、審査員長が選考経過を報告し、グランプリを受賞した宮里紘規氏が受賞者を代表して謝辞を述べた。

② 新進美術家の育成援助

新進美術家の支援・育成を目的とする「損保ジャパン日本興亜美術財団賞」を公募美術展における平面部門での受賞者に授与した。

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
1	第64回 モダンアート展	H26.4.1	相馬 亮	one day ~hope~
2	第73回 創元展	H26.4.2	松田 和子	家族の肖像・宇宙
3	第67回 示現会展	H26.4.2	瀧口 民男	冬晴れ
4	第73回 水彩連盟展	H26.4.4	橋本 弘徳	回帰
5	第62回 光陽展	H26.4.12	宗 ひろ美	陽光さす
6	第100回記念 光風会展	H26.4.17	小林 理恵	横浜夕景 21・花火
7	第91回 春陽展	H26.4.19	畠山 昌子	Vision 140401
8	第80回記念 東光展	H26.4.25	黒木 ゆり	朝の光の中で VI
9	第88回 国展	H26.5.1	大前 美登利	Pantna Rhei I
10	第59回 新世紀展	H26.5.2	小倉 麻友子	エートス
11	第74回 美術文化展	H26.5.12	山形 弘枝	HELP~いちご~
12	第110回記念 太平洋展	H26.5.14	山本 順一	地球よりのメッセージ
13	第66回 三軌展	H26.5.17	遠藤 喜美子	古代ロマン
14	第50回 国際公募 亜細亜現代美術展	H26.5.22	岡 幸雄	ザリガニの憂え
15	第80回記念 旺玄展	H26.5.25	石井 代央子	鳩のいる景—繋ぐ
16	第28回 日洋展	H26.5.28	磯部 美代子	Smell of ocean 磯の香
18	第70回記念 現展	H26.5.31	中畑 勝美	刻 2014 ピエロの想い
20	第85回 第一美術展	H26.5.31	滝口 重美	時空を超えた都市
17	第57回 新象展	H26.6.1	青木 麻由子	辿り着けば桃源郷
19	第102回 日本水彩展	H26.6.3	鳥巢 啓三	風刻
21	第67回 創造展	H26.6.14	岡崎 和美	降りて灯る
22	第68回 女流画家協会展	H26.6.29	當間 葉奈子	丘の上、E-1
23	第93回 朱葉会展	H26.7.2	矢代 ちとせ	想
24	第51回 近代美術協会展	H26.8.21	深井 孝城	脱げないタイツ
25	50周年記念 主体展	H26.9.2	森 慎司	鉛の海の底で
26	第99回 二科展	H26.9.3	今村 恵利子	此処から
27	第78回 新制作展	H26.9.17	渡辺 有葵	日々育てた花と共にあの日を 思い出す
28	第69回 行動展	H26.9.17	江藤 千代子	微温む I
29	第86回 新構造展	H26.9.21	神保 雅春	サーカスは船に乗って. 出港準備
30	第76回 一水会展	H26.9.23	才村 啓	Homer
31	創立60周年記念 一陽展	H26.10.1	岡崎 昭夫	反転する表面—2014—
32	第57回 新協展	H26.10.5	田谷 行平	八月の哭声
34	第82回 独立展	H26.10.15	斉藤 悠紀子	HARUKA 2014-1
35	第68回 二紀展	H26.10.18	馬場 洋	微睡みの幻— I —
33	第66回 中美展	H26.10.18	高谷 稔	若芽に託す
36	第65回記念 一線美術会展	H26.10.25	富 稚阿紀	イキタココチB2+ゼロ(ハルオハ ルヲマツ)
37	第45回 元陽展	H26.11.1	瀬戸 忠	GOOSEFISH (アンコウ)

番号	展覧会名	授与年月日	受賞者	受賞作品名
38	第91回 白日会展	H27.3.18	吉住 裕美	陽のあたる窓辺

## (5) 公共への協力

### ① 文化行政への協力

- 1) 東京都 心の東京革命推進協議会主催「都民ふれあいの日」に協力し、年間を通して18歳未満の子供を連れた都民に対する優待割引を実施した。
- 2) 新宿消防署が主催する絵画展の審査会に協力し、新宿消防署長より表彰された。
- 3) 新宿区が主催する「新宿クリエイターズ・フェスタ(8/22～9/7)」に協力し、「キネティック・アート展」「ノルマンディー展」がタイアップイベントとして紹介された。
- 4) 新宿区が主催する「来て・見て・楽しい 新宿フィールドミュージアム 2014」(10/1～11/30)に協力し、イベント冊子の提示による「ノルマンディー展」の観覧割引を実施した。
- 5) 『東日本大震災被災文化財復旧支援事業 Save Our Culture ～心を救う、文化で救う～』を支援するため、書籍「ファン・ゴッホとひまわり」(ゴッホ美術館発行)の売上金全額と復興支援ラバーバンド「PRAY FOR JAPAN」の収益金を公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団に募金した。(3月31日)

### ② その他

- 1) 学芸員資格取得のための博物館実習を次のとおり実施した。(8月12日～20日)  
実習期間：参加大学生：16校16名  
お茶の水女子大学、筑波大学、駒澤大学、実践女子大学、跡見学園女子大学、武蔵野美術大学、多摩美術大学、共立女子大学、学習院大学、成城大学、中央大学、青山学院大学、東京女子大学、東京大学、東京学芸大学、女子美術大学
- 2) お客様感謝デーとして、「ノルマンディー展」を観覧料無料で公開した。(観覧者数2,119名)また、新宿区主催の大新宿区まつり(期間：10/1～10/19)の協賛イベントとしても協力した。(10月1日)
- 3) 第13回新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソン(主催：新宿区他、大会事務局：公益財団法人新宿未来創造財団)に協賛した。(1月25日)

## II 処務の概要

### 1. 役員等に関する事項

平成26年度末現在

職名	氏名	就任日	摘要	最初の就任日
理事長 代表理事 (非常勤)	佐藤 正敏	H26.6.26	損害保険ジャパン日本興亜(株)相談役	H18.6.24
専務理事 業務執行理事 (常勤)	原口 秀夫	H26.6.26	東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館館長	H23.6.24
理事 (非常勤)	寺坂 公雄	H26.6.26	画家、日本芸術院会員、(公社)日展顧問、 (一社)光風会理事長	S62.3.25

職名	氏名	就任日	摘要	最初の就任日
理事 (非常勤)	千足 伸行	H26.6.26	美術史家、美術評論家、成城大学名誉教授	H10.6.24
理事 (非常勤)	樺山 紘一	H26.6.26	印刷博物館館長、東京大学名誉教授	H20.6.24
理事 (非常勤)	佐野 めい	H26.6.26	画家、女子美術大学名誉教授	H24.6.29
監事 (非常勤)	斎藤 昭一	H24.6.29	公認会計士、座間市代表監査委員	H14.6.24
監事 (非常勤)	新里 智弘	H24.6.29	公認会計士、税理士	H19.6.19
評議員 (非常勤)	安食 一雄	H26.6.26	画家	H12.6.24
評議員 (非常勤)	真室 佳武	H26.6.26	東京都美術館館長	H17.6.14
評議員 (非常勤)	國分 正明	H26.6.26	(公財)修養団理事長、 (一財)教職員生涯福祉財団理事長	H18.6.24
評議員 (非常勤)	高階 秀爾	H26.6.26	大原美術館館長、 (公財)西洋美術振興財団理事長	H18.6.24
評議員 (非常勤)	遠山 敦子	H26.6.26	(公財)トヨタ財団理事長、 (公財)パナソニック教育財団理事長	H18.6.24
評議員 (非常勤)	宝木 範義	H26.6.26	美術評論家	H20.6.24
評議員 (非常勤)	森田 富治郎	H26.6.26	第一生命保険(株)特別顧問	H20.6.24
評議員 (非常勤)	小佐野 重利	H26.6.26	東京大学大学院人文社会系研究科長、 東京大学文学部長	H21.3.31
評議員 (非常勤)	片山 郁夫	H22.6.24	損害保険ジャパン日本興亜(株) 理事広報部長	H22.6.24
評議員 (非常勤)	馬越 陽子	H26.6.26	画家、独立美術協会会員、女流画家協会 委員、多摩美術大学大学院客員教授	H24.6.29
評議員 (非常勤)	橋本 豊	H26.6.26	DIC川村記念美術館館長	H25.6.25
評議員 (非常勤)	嶋田 行輝	H26.6.26	損害保険ジャパン日本興亜(株)CSR部長	H25.6.25
評議員 (非常勤)	宮田 亮平	H26.6.26	東京藝術大学学長	H26.6.26
評議員 (非常勤)	埴 昌樹	H26.6.26	損害保険ジャパン日本興亜(株) 取締役常務執行役員	H26.6.26
評議員 (非常勤)	松広 清	H26.6.26	損害保険ジャパン日本興亜(株) 理事総務部長	H26.6.26
顧問 (非常勤)	東郷 たまみ	H24.6.29	画家 元損保ジャパン日本興亜美術財団理事	H24.6.29

## 2. 職員に関する事項

平成26年度末現在

区分	氏名	就業年月日	担任業務	備考
事務局長	土橋 浩次	H26.4.1	事務局事務統括	損害保険ジャパン日本興亜(株)より出向
学芸課長	五十嵐 卓	H11.4.1	資料の収集・保管・展示、調査研究、その他専門的業務	
主任学芸員	小林 晶子	H9.9.1	〃	
主任学芸員	中島 啓子	H9.10.1	〃	
学芸員	江川 均	H10.4.1	〃	
事務職員	出口 知子	H11.10.1	財団総務・美術館運営事務他	
事務職員	本條 志穂	H15.10.1	美術館運営事務、広報事務他	
事務職員	池田 美紀	H24.4.1	美術館運営事務、広報事務他	
事務職員	杉本 典子	H24.4.1	美術館広報事務他	12/10 より産前産後休暇、3/18 より育児休暇取得中
事務職員	吉井 有紀	H25.4.1	鑑賞教育事務、広報事務他	

## 3. 役員会等に関する事項

### (1) 理事会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
平成26年6月5日	<b>■報告事項</b> 活動状況報告(平成26年3月～5月末) 理事長専務理事の職務執行状況 (平成26年3月～5月末) 平成27年度以降の展覧会企画検討状況 <b>■議案審議</b> 定時評議員会の招集 平成25年度事業報告及び決算報告の承認	原案通り可決 原案通り可決
平成26年6月26日	<b>■議案審議</b> 理事長の選定 専務理事の選定 定例役員報酬の承認	佐藤正敏理事を選定 原口秀夫理事を選定 原案通り可決
平成27年3月25日	<b>■報告事項</b> 活動状況報告(平成26年6月～平成27年2月末) 理事長・専務理事の職務執行状況の報告 (平成26年6月～平成27年2月末) <b>■議案審議</b> 平成27年度事業計画及び収支予算書等の承認	原案通り可決

## (2) 評議員会

開会年月日	議事事項等	会議の結果
平成26年6月26日	<b>■報告事項</b> 平成25年度事業報告 平成26年度事業計画及び収支予算 <b>■議案審議</b> 平成25年度決算報告の承認 理事の選任 評議員の選任	原案通り可決 原案通り選任 原案通り選任

## 4. 許可、認可、届出、承認及びその他の重要事項

申請等年月日	申請等事項
平成26年6月8日	東京都及び文部科学省へ青少年を対象とした取組等に関する実績報告(平成25年度)を提出
平成26年6月27日	内閣府へ平成25年度事業報告等を提出
平成26年7月16日	内閣府へ評議員の変更を届出
平成26年9月1日	法人の名称を「公益財団法人損保ジャパン日本興亜美術財団」に変更 美術館の名称を「東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館」に変更
平成26年9月9日	東京都へ法人及び美術館の名称変更を届出
平成26年9月10日	内閣府へ法人及び美術館の名称変更を届出
平成27年3月28日	内閣府へ平成27年度事業計画書等を提出

## 5. 寄付金等に関する事項

寄付の目的	寄付者	領収金額	備考
公益目的事業に充当	(株)損害保険ジャパン	64,700,000 円	
法人の管理運営に充当	(株)損害保険ジャパン	21,300,000 円	
公益目的事業に充当	法人 35件	6,640,000 円	
公益目的事業に充当	個人 56件	2,212,000 円	

## 6. 行政庁指示に関する事項

該当なし

## 7. その他

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則第34条第3項に規定する附属明細書は、特記事項がないため作成していない。

以上